

第198回（令和2年5月31日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿記入についての出題〉

帳簿記入に関する基礎的な知識を文章の正誤判断により問うている。

1. 現在学んでいる記録方法としての複式簿記の特徴を確認している。
2. 帳簿記入の際に証拠となる証憑（しょうひょう）について確認している。
3. 記帳対象となる簿記上の取引についての理解を確認している。
4. 貸借合計金額が一致して帳簿を締め切る際の複線について確認している。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. マンション管理のための組合が共用部分を修理した際に現金を支出した取引である。現金（資産）による支払いと、修繕費（費用）の発生にかかる記帳を問うている。
2. マンション管理のための組合事務所で発生した電気料金を支払った取引である。1.と同じく現金（資産）による支払いと、水道光熱費（費用）の発生の記帳を問うている。
3. マンション管理のための管理費を集金した取引である。管理費収入（収益）の発生と現金（資産）による集金の記帳を問うている。
4. 現金の出資により個人企業を開業した取引である。出資された現金（資産）の受け取りと、その出資額である資本金（資本）に関する記帳を問うている。
5. 商品売買業者（家電小売業）が商品を代金後払いで購入した取引である。商品（資産）の購入と、買掛金（負債）に関する記帳を問うている。
6. 商品売買業者（家電小売業）が商品を販売した取引である。商品（資産）を販売し、引き渡すことによって商品販売益（収益）を獲得し、商品代金を後払いで受け取る債権である売掛金（資産）を得た際の記帳を問うている。
7. 後払いで購入した商品の代金を支払う債務である買掛金を支払った取引である。普通預金（資産）からの支出と、買掛金（負債）の減少の記帳を問うている。
8. 月極駐車場の使用料金を支払う取引である。支払地代（費用）の発生とその支払いに充てられる現金（資産）の減少の記帳を問うている。

第3問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

帳簿の基本的な形は、日々の取引を記録する日記帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿（元帳）の2つである。本問では、日記帳としての仕訳帳に記入されている取引を、勘定科目がまとめられている元帳へ転記するという手続きを問うている。今回の元帳は簡略化したTフォーム形式とした。仕訳された勘定科目が元帳の勘定口座に記入され、勘定口座では仕訳された側（借方または貸方）に、日付、相手勘定科目、金額を適切に記入できるかを試している。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

会計期間の収支計算を示すことによって会計報告する場合には、前期繰越金から出発し、期中の活動による変動を経て、次期繰越金に至る過程を示す会計報告書を作成する。

本問では、一会計期間の会計記録をまとめた試算表から囲碁サークルの会計報告書（報告式）を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、支出項目の配列は試算表の配列によることに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期間損益計算を行う営利企業を対象とする会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から貸借対照表と損益計算書を作成できるかを問うている。解答用紙に勘定科目をあらかじめ示してあるので、作成に際しては、金額を誤らないように記入し、当期純損益を算出するという手順が理解できているかを試している。